

第 1 回 堺市農業振興ビジョン検討懇話会 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 18 日（水曜）午前 10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所	堺市役所 高層館 12 階 農業委員室
出席者	加我座長、池側構成員、磯和構成員、大町構成員、川口構成員、北尻構成員、山口構成員（web 出席）
欠席者	上総構成員、中塚構成員
議題	座長の互選について 地域計画の堺市農業振興ビジョンへの反映方針について

開会

○事務局

第 1 回堺市農業振興ビジョン検討懇話会を開催する。堺市産業振興局長より挨拶を行う。

○堺市産業振興局長

委員方には、堺市農業振興ビジョン検討懇話会の構成員に就任いただき感謝する。また本日は多忙の中、第 1 回懇話会に出席いただきあらためて礼を述べたい。

本市は大阪府内 1 位の農業産出額を持つ農業が盛んな地域であり、第 3 期堺市農業振興ビジョンでは「地産地消の推進」を基本姿勢として都市農業施策を進めている。

一方で、農業者の高齢化や担い手不足、さらに近年の気候変動、物価高騰など本市農業が抱える課題は多岐にわたっている。

本市の市政運営の大方針である「堺市基本計画」では、「次世代につなげる農業の促進」を施策の一つと位置づけており、新技術の導入や後継者の確保のほか、地産地消による地域に根差した都市農業の振興を進める方針である。

また、令和 7 年 3 月には、地域ごとに関係者で協議した内容を踏まえた農業経営基盤の強化の促進に関する計画いわゆる「地域計画」を策定しており、この中でも、将来に向けた課題や対応の方向性を示している。

本懇話会で意見を伺う「堺市農業振興ビジョン」は、現在第 3 期の実施期間中であり、令和 8 年度に満了を迎える。そのため、来年度末までに第 4 期ビジョンの策定を進める予定である。上位計画や地域計画で示された内容も踏まえ、市民全体で共感できるビジョンとしたいと考えている。

生産から流通、消費までさまざまな立場で見識がある構成員の力を借り、より現状に促したビジョンを策定したい。忌憚のない意見をいただけるようよろしくお願いします。

○事務局

- ・懇話会構成員紹介（上総構成員、中塚構成員は欠席。）
- ・資料確認（配布資料読み上げ。）
- ・座長就任（構成員の互選により加我構成員が座長に選出。）

○加我座長

本日の案件は大きく、1 点とその他になるが、「地域計画の堺市農業振興ビジョンへの反映方針について」ということで、まず「（1）策定に向けた状況整理」について事務局から説明をお願いします。

案件

1. 地域計画の堺市農業振興ビジョンへの反映方針について
（1）策定に向けた状況整理

○事務局

- ・資料 1 を説明

○加我座長

今回、第 4 期の策定に向けてということで、第 3 期改訂版の概要、上位計画について説明いただいた。2030 年までの目標に向けて、地産地消が大事だということで現在の社会情勢を踏まえて整理をしている。構成員から質問、意見をお伺いする。

○加我座長

今日は状況整理ということで、もしかしたらよく存じた内容かもしれない。今年度は第 1 回ということで、自由な意見交換会となる。次回、第 3 期農業振興ビジョンの総括を含めて、本格的な議論に入っていく。次の 10 年間を見据えてということになるが、ひとまず 5 年間の 2030 年を見据えて活発な議論ができればと思っている。

次の議題の「地域計画について」の説明も含めて質問、意見を伺いたいと思う。議題 2「地域計画について」資料 2 の説明をお願いします。

案件

1. 地域計画の堺市農業振興ビジョンへの反映方針について
（2）地域計画について

○事務局

- ・資料 2、策定した地域計画（中区を例に）、目標地図（13 地区）を説明

○加我座長

堺市の市街化調整区域を中心に、今まで圃場整備を行った農用地を含め、様々な取組がされている地区ごとの地域計画の説明があった。色々な立地、規模の農地で地域の実情に応じた取組をということで、様々な農業としての強化、あるいは規模拡大をめざす農業者や新規就農者に対して集団化を図っていくのかというのがある。

本日準備した資料は以上となる。構成員から意見をいただきたいと思う。

○磯和構成員

資料 1 の 6 ページ目の堺市 SDGs 未来都市計画の主な取組の中で、担い手の確保や育成についての項目が出てこない。それぞれの取組を行う中で担い手の確保等に取り組むという風に捉えてよいのか。

○事務局

堺の場合は、産業としての農業を振興していく部分である、担い手の育成や新規就農者の確保の取組は現在も行っており、地域計画を策定する中で、改めて必要であるというのも再認識している。堺市 SDGs 未来都市計画にも関係するが、農空間の保全、水路やため池などの維持管理をしていかないと荒れていくことになる。これから高齢化で農家が減っていくので、そういった支援も必要である。

また、地産地消という話もあったが、多面的機能でいうとそのメリットを受けるのは必ずしも農地の所有者ではなく、周辺に住んでいる住民である思っており、住民としてその農地を間接的に支えるという立場にもなると思う。地元の農産物を食べ、地元の農業を認識して理解していただくという取組により、農業と農空間の保全を支えていく、繋いでいくという取組も必要と思っている。

○磯和構成員

担い手の確保と育成が今後大事かと思うので、主な取組に生産者についての項目があった方がよいと感じたが、それぞれの項目の「地産地消の推進」や「堺産農産物のブランド化」の取組の中に含まれているということであれば、問題なし。

○加我座長

質問があったところは SDGs 未来都市計画（2026～2030）であり、資料 1 の 4 ページの堺市基本計画 2030 の説明では、新たな担い手となる新規就農者の発掘のほか、農業後継者の円滑な経営継承と規模拡大とある。SDGs 未来都市計画では、ゴール、ターゲットが「飢餓をゼロに」となっており、「食」を中心に主な取組が書かれている。

○大町構成員

消費者の立場でいうと、安全はもちろん生活がかかっているので安価な物というのがまず頭に浮かんでくる。消費生活協議会では、市民に向けての啓発を一生懸命行っているが、担い手育成の問題は

市民と一緒にやるべきだと思う。消費者も考えるべきことが多々あると思うので、そういった定義もあればいいと思う。

○川口構成員

私は美原区で 5 反ほど耕作をしているが、農業をやっている中では若手である。70 歳半ばぐらいの方が中心で、中には 80 歳超えて元気に頑張っている方もいる。地域計画策定の時も考えていたが、10 年後はどうなっているかわからない。こどもが農業を手伝ったりすることは繁忙期を除いてあまりないと聞く。そうすると、皆が思っているよりもっと早く耕作放棄地は増えてくると思う。

また、区画整理してるところであれば耕作しやすいが、実際には高低差や変形土地など大型の機械を入れる場合、田を跨ぐ必要があるところもたくさんある。さらに、車よりもはるかに難しい農器具の運転での事故もかなり増えている。若手の参入が進まないと今後の農業は厳しくなっていくと思う。

○事務局

消費者へのアピールということで、資料 1 の 4 ページの堺市基本計画 2030 の中で、「堺のめぐみ」「泉州さかい育ち」のブランド力向上をめざし発信を強化するなど消費者に選んで食べていただく取組を進めていくとしている。また、学校給食やスーパーなどの販売のほか、飲食店での利用も進めていきたいということで、方向性として挙げている。実際の KPI の目標については、消費者に向けた目標であり、市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合としている。毎年アンケートを取るが、目標値を 65%としている。今現状は 60%前後で推移しているので 65%以上で維持していきたいと思っている。消費者に「堺のめぐみ」を食べていただけるからこそ、地域に農地があることを認識していただける。遠まわしではあるが、必要なことで結果的に農地の維持に繋がると思っている。

川口構成員さんがおっしゃっていた地域事情は、普段の業務や地域計画の協議の場でも、よく聞いている。本日改めて認識したので、そういった声も含めてビジョンの中身を検討して行きたい。

○池側構成員

JA 堺市では、オペレーターや農家にお手伝いいただき農作業受託を行っている。JA 堺市の場合は、草刈りや稲刈り等の作業に必要な機械は、全てオペレーターの自前である。オペレーターは最高齢の方で 78 歳、その次の世代が 70 歳手前と高齢化が進んでいる。いずれは JA で機械を準備し、職員も機械に乗らなければいけない時代が来ると覚悟をしている。今後、事業として捉まえた場合、農作業受託協議会の中で行うのか、子会社化（法人化）して行うのか岐路に差し掛かっている。JA は総合事業でやっている。営農経済事業だけでは利益は創出できない。お客様に貯金していただくこと、保険に入っていることが営農施策に繋がっているということを従業員に伝えている。普通であれば赤字になるような事業も行わなければいけない。農業協同組合の使命として、信用共済部門を頑張っ、営農経済事業にできるだけ資金が回るような形で使命感を持ってやっている状況であり、転換期と思っている。

○北尻構成員

消費生活協議会の方の話もよくわかるが、耕作には様々な手間がかかり、かつ資材費も高騰しているので、その辺も理解してほしいと思う。

また、堺市内にはかなりの農家がいる。JA 堺市においても 4H クラブというのがかなりの人数いる。新規就農者だけではなく、今現在農家をされている人やその後継者に向けた施策を大阪府にもお願いしたい。

もう 1 点は堺市にお願いしたい要望である。私は圃場整備地区内の農地をもっているが、地区外の各地には、水路や農道の整備が不十分なところがある。次を担っていく農家が安心して耕作できることも考えていただきたい。

○山口構成員

地域計画のアンケート回収率が 100%ではないとのことだが、回収率の平均はいかほどか。また、鉢ヶ峯地区などは、目標地図の緑の部分（10 年後の農地利用予定あり）が多かったと思うが、アンケート回収率は平均値と比べて違うのか聞きたい。目標地図を見ていると圃場整備を行っている地区の方が、10 年後も農業を行っている方が明らかに多いように思う。大規模ではないにしても、圃場整備を行うことは大阪府や国とも連携しながら取組まれた方がよいと思う。

また、食料・農業・農村基本法において、食料システム全体で環境負荷低減を図ると明記されていると思う。堺市にて取り組んでいる地域内資源を活用して栽培したお米「堺のひかり」は、サンプラザでも販売しており、まさに環境負荷低減の農産物と言える。地産地消の推進とともに、もう少し幅広の観点で、環境負荷低減への寄与、あるいは生物多様性の保全等の観点でご意見、計画等があれば伺いたい。

○事務局

アンケートの回収状況は市全域では、約 60%である。目標地図上で色分けしているが、アンケートの回収があった 60%の中でかつ、10 年後が見通せている農地を緑色に着色している。回収あったか否かの色分けはしておらず、10 年後確定している農地を示している。鉢ヶ峯地区などの圃場整備地区は、集落でまとまって協議の場を設けた場所であり、回収率は約 80%である。営農組合もあり、農業に対して意識の高い方が多い地域なので、地図上で緑色に着色している農地が多いという結果になっている。

環境負荷低減という部分では、大阪府エコ農産物認証制度により、堺の場合は「泉州さかい育ち」という独自ブランド名を作っており、サンプラザでもたくさん取り扱っていただいている。同じくサンプラザにご協力いただいている上神谷地域のお米「堺のひかり」は、化学肥料や化学農薬に過度に頼らないよう、有機質肥料をなるべく使って栽培されたお米である。有機質肥料は地域内の資源である堺酪農団地の牛糞を活用している。資源が地域内にあるので、その資源を上手に活用した農業を推進し、オーガニックビレッジに取り組みたい。「堺のひかり」は、まだ試験栽培の段階で 3 年目を過ぎたところであり、もう少し品目や面積を拡大できるよう取り組んでいる。

○加我座長

本日は、現在の状況等の整理を示していただいた。地域計画については、農地をお持ちの方の 10 年後の意向を踏まえということで、色々な立地規模の農地がある地域の実状に合わせて、皆からのアイデアにより様々な取組に繋がっていくと思う。

構成員からの意見として挙げたのは、農業従事者や新規就農者、後継者も含めて営農される方がいなければ、美味しいものを食べることができないので、営農環境を整えていくということ。生産者に加えて、消費者に向けて、地産地消を推進していくということ。加えて、環境問題にも少々念頭に置きながら、次期ビジョンが検討できればと思う。

○加我座長

その他、質問はあるか。

○加我座長

案件（２）その他についてはどうか。

○事務局

今年度の懇話会については、この 1 回のみで、2 回目以降の懇話会は来年度となるので、改めて構成員の方には就任依頼等をさせていただく。次回の懇話会は 6 月頃を予定しており、現行ビジョンの総括の説明、次期ビジョンの主な構成や基本内容についての意見を伺う予定である。

○加我座長

本日お預かりしている議題の案件の方は以上となる。司会を事務局にお返す。

○事務局

以上で第 1 回堺市農業振興ビジョン検討懇話会を終了する。

閉会

以上